

DEMAND CONTROL SYSTEM

～最大デマンド(最大需要電力)管理のサポート～

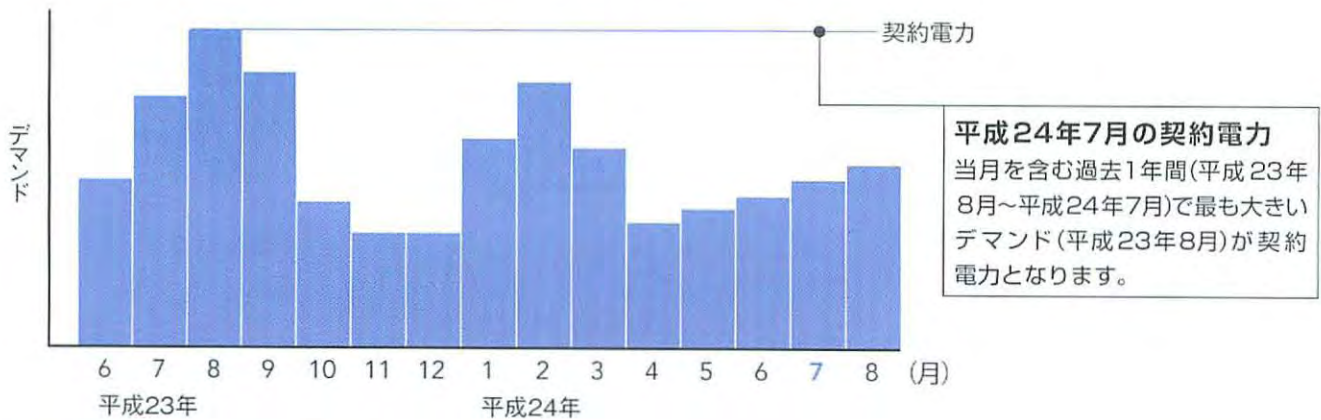
最大デマンドを抑制することで、電気の基本料金の低減につながります

最大デマンドとは

最大デマンドとは、お客さまがご使用された電力を30分毎に計量し、そのうち月間で最も大きい値のことをいいます。この値は、同時にご使用になる電気機器が多いほど、大きくなります。

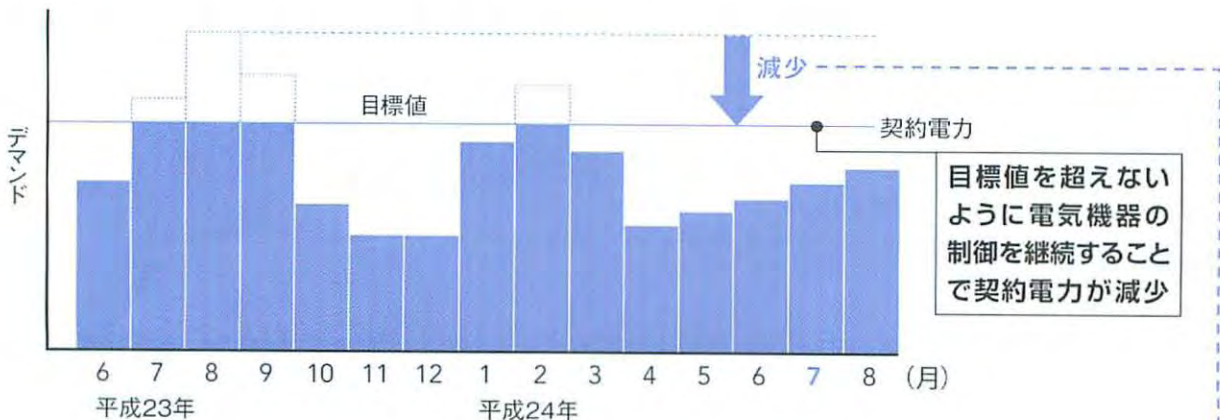
実量制契約のお客さまの契約電力の決定方法について

契約電力500kW未満のお客さまは、当月を含む過去1年間の最大デマンドが契約電力となります。したがって、最大デマンドが大きくなると契約電力も大きくなります。電気の基本料金は、契約電力に基づいて算定しますので、最大デマンドの抑制が基本料金の低減につながります。

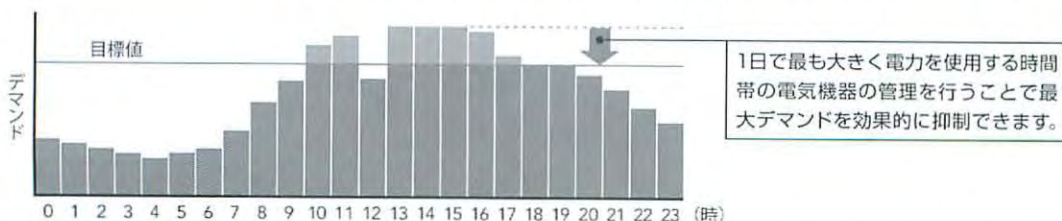


デマンドコントロールシステムとは

お客さま自らがデマンドの目標値を設定し電気機器を管理することで、最大デマンドが大きくなることを抑制し契約電力の減少を図るシステムです。 ※必ずしも効果を保証するものではありません。



1日の最大デマンド抑制のポイント



システム概要

デマンドコントロールシステムが電気の使用状況を監視しデマンド値を記録・管理します。システムの制御には手動と自動の2つのタイプがあります。

手動制御タイプ(警報タイプ)

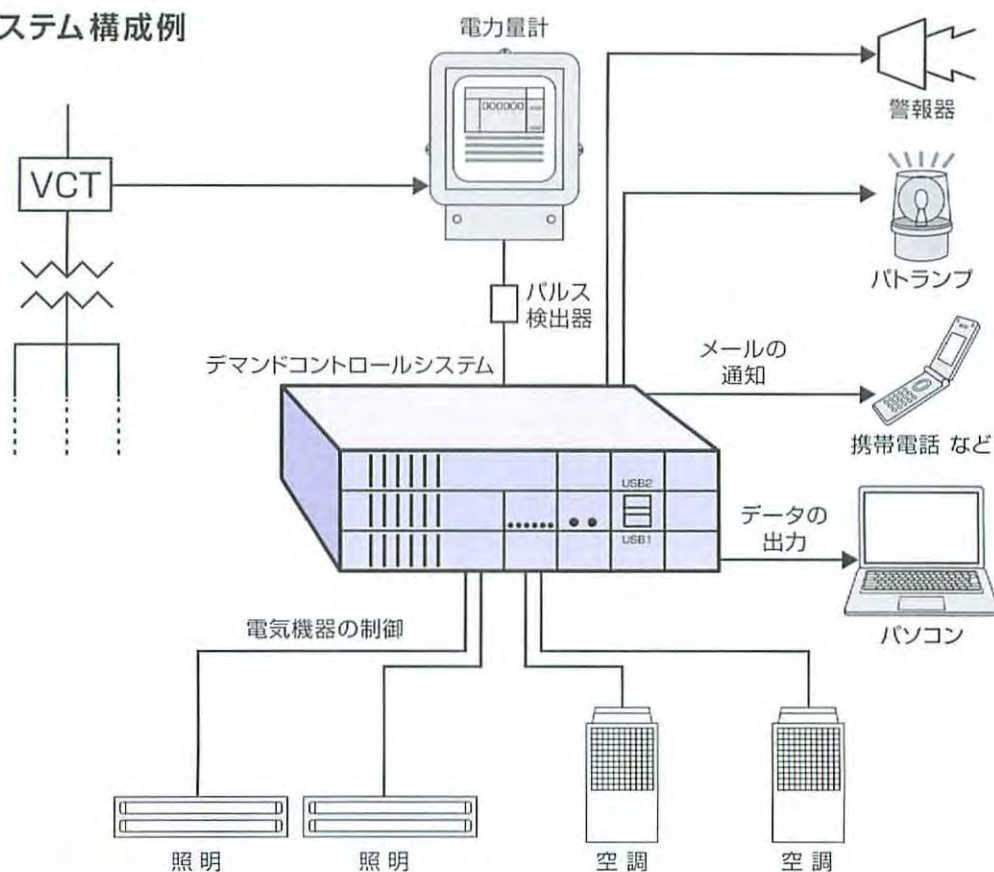
あらかじめ設定した目標値を超えそうな場合、警報などでお知らせするシステム*。電気機器(空調・照明など)の制御は手動でお客さま自行いします。

*お知らせ後、電気機器の制御を行わない場合、最大デマンドの抑制はできません。

自動制御タイプ

自動的に電気機器を制御するシステム。電気機器に優先順位を設け、あらかじめ設定した目標値を超えないよう、優先順位に従って警報などでお知らせした後に自動的に電気機器を制御します。

■システム構成例



デマンドを予測するためには、その基となる計量信号(パルス)が必要です

デマンドコントロールシステムの導入を決定されましたら、東京電力にお申し込みください。電力量計から発信する計量信号を無償でご提供いたします。

ご質問などにつきましては下記へお願いします。

高圧のお客さま専用お問い合わせダイヤル TEL.0120-926-488 (通話料無料)

[月曜日～金曜日(休・祝日を除く) 9:00～17:00]

※お問い合わせの際には、誠にお手数ですが、お手もとにお客さま番号をご用意ください。お客さま番号は、電気ご使用量のお知らせ(検針票)や領収証等から確認いただけます。

※お問い合わせの際には、電話番号をお間違えないようご注意ください。

夏期の節電手法のご紹介

空調(冷房)や照明設備などのご使用を可能な限り控えていただくことや、お客さまの操業形態(使用機器の稼働時間)の調整など、さまざまな手法を効果的に組み合わせさせていただき、夏期の節電にご協力くださいますようお願いいたします。

以下に、具体的な節電の手法をご紹介します。

1. 用途別(機器別)の節電手法

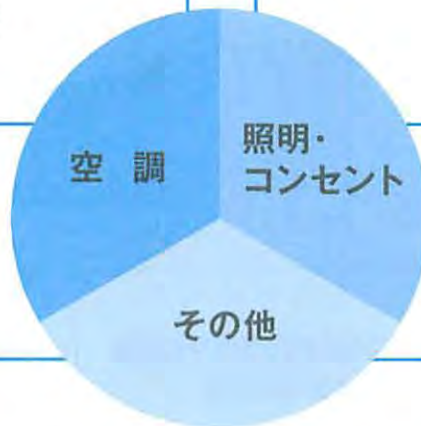
ビル・工場などにおける使用機器は、①空調(冷房など)、②照明・コンセント、③その他の使用機器、の3つに分けられ、それらの機器特性に応じた節電を実施することが効果的です。

① 空調(冷房など)

- ・室内温度を原則28℃に設定
- ・不使用エリアや共用部などの空調停止
- ・日射防止による空調負荷の低減
(ブラインド・カーテンの使用 など)
- ・外気取入量の適正化による空調負荷・動力の低減
- ・エアコン室外機への日射防止などによる効率向上
- ・熱交換器やフィルターの清掃

② 照明・コンセント

- ・不使用エリアや共用部の間引き・消灯
- ・昼光利用による照明の間引き・消灯
- ・省エネ型蛍光灯やLED照明などへの切り替え
- ・長時間の離席時にはOA機器の電源を切る
- ・給茶器・温水便座などのプラグを抜く
- ・未使用機器のプラグを抜く



③ その他の使用機器

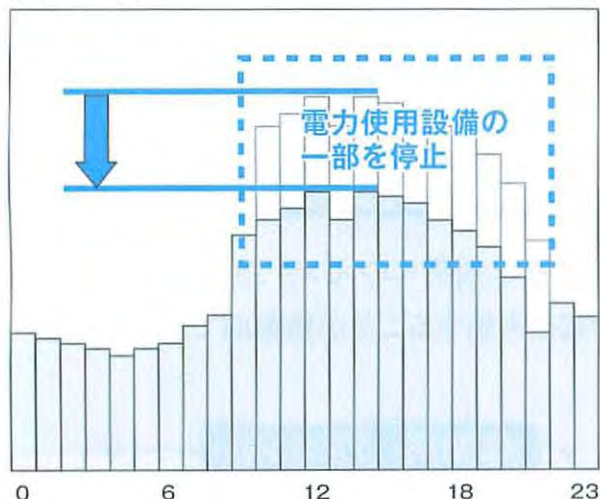
- ・デマンドコントロールシステムの導入
- ・冷蔵・冷凍ショーケースの設定温度変更
- ・エレベーターやエスカレーターの一部運転停止
- ・適切な機器メンテナンスの実施
- ・待機状態設備の停止
- ・加熱炉・加熱装置の放熱防止
- ・コンプレッサーの供給圧力低減 など

2. 操業調整などによる節電手法

① 使用機器の一部停止・夜間などへの稼働シフト

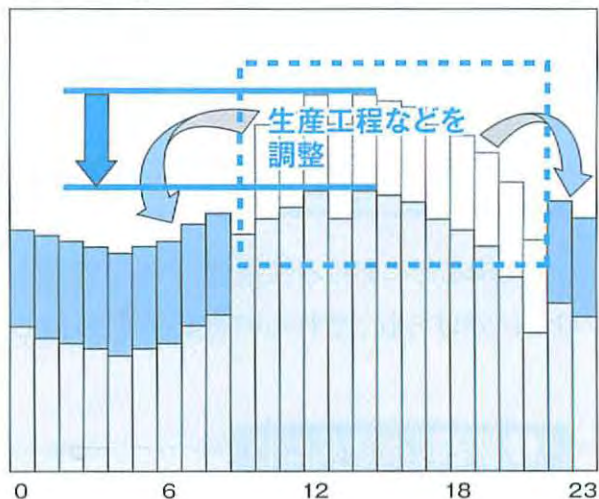
お客さまの操業形態(使用機器の稼働時間)を調整することによって、電力負荷を低減します。
(例)使用する機器の一部停止、電力負荷の少ない夜間への稼働時間シフト など

【イメージ】



使用機器の一部停止

【イメージ】



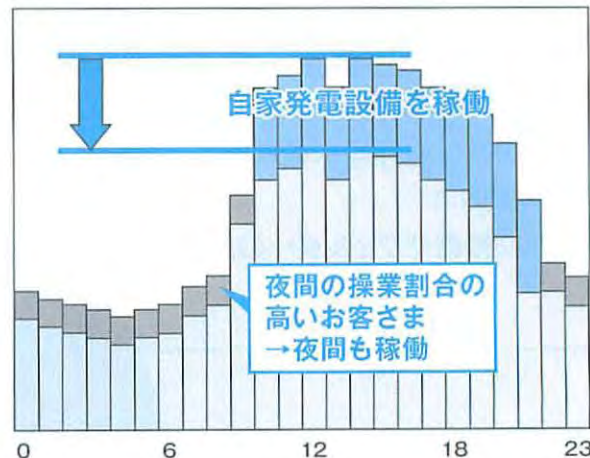
夜間などへの稼働シフト

② 自家発電設備の使用

お客さまが保有している(休止中の)自家発電設備を稼働させることによって、系統電力からの受電を抑制します。

その場合、お客さまの操業形態や使用する燃料の価格などに応じた適切な運転パターンを選択することが重要です。

【イメージ】



自家発電設備の運転パターン

<運転パターン>

ピークカット運転 … 電力負荷が高くなる時間帯のみに発電

ベースロード運転 … 定格に近い状態で長時間発電

※休止中の自家発電設備を稼働させる際は、関連する法令や各自治体の条例などに準拠する必要があります。

〈このお知らせについてのお問い合わせは〉

高圧のお客さま専用お問い合わせダイヤル

0120-926-488 (通話料無料) (月曜日～金曜日(休・祝日を除く)9:00～17:00)

※お問い合わせの際には、誠にお手数ですが、お手もとにお客さま番号をご用意ください。

お客さま番号は、電気ご使用量のお知らせ(検針票)や領収証などからご確認いただけます。

※お問い合わせの際には、電話番号をお間違えないようご注意ください。